

学習指導法としての「奈良の学習法」

—奈良女子大学附属小・3月組の子ども達が作った学習を手がかりに—

溜池 善裕

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第8号 別刷

2021年8月31日

学習指導法としての「奈良の学習法」[†]

—奈良女子大学附属小・3月組の子ども達が作った学習を手がかりに—

溜池 善裕*

宇都宮大学共同教育学部*

「奈良の学習法」は子ども達に学習の仕方を会得させる学習指導法の総体である。既に2019年度、ある程度学習を作ることが出来るようになった子ども達は、2020年度になると、どのような学習が提示されても、お友達が作る学習を意識しながら疑問や問いを発見し、それを解明しようとする独自学習を作ることが出来るようになった。このような学習が作れるようになるにしたがい、子ども達が協力して様々な矛盾を見つけて問いを発見しそれに迫る「しごと」の学習が作れるようになった。それと同時に、問いが物語文や説明文の作者によって予め設定されている「けいこ（国語）」・単一の問いを発見しそれに迫る「けいこ（算数）」・疑問を見つけ仮説を実験で確かめる「けいこ（理科）」の学習については、自在に作れるようになり、社会科については教科書の内容以上の学習を作った。

キーワード：奈良の学習法、問い

1. 研究の目的

本稿の目的は、奈良女子大学附属小（以下、附小とする）の3年月組の子ども達が、学習法によってどのように育ちまた伸びたかについて、実践者である薄田太一氏（奈良女子大学附属小）と確認した事柄やデータに依拠することで客観性を担保しつつ、学術的かつ詳細な記録として、それを残すことにある。そのためにこれまで追跡した3年間の子ども達の伸びを確かめた上で（以上2）、指導2年目および3年目になる子ども達が休校期間中からどのように自律的に学習を作り（以上3）、休校明けはどのようにそれを活用しながらみんなで解明しようとする問いの解決に向けてどのように「しごと」の独自学習を作ったか（以上4）、またその間どのように「けいこ」の国語・算数・社会・理科の独自学習を作り（以上5）、1年間の学習を通して学習と問いとの関係をどのように捉え、そのなかで「なかよし」をど

う位置付けたか（以上6）、またその際「しごと・けいこ・なかよし」がどのように使われたか（以上7）を記述し、「奈良の学習法」と「しごと・けいこ・なかよし」とはどのような関係にあるのか（以上8）について考究するものである。

2. 多様で多角的な独自学習を作る子ども達

本実践では各々の子どもの学習を捉える作文（日記・ノート）が肝要であるが、薄田氏が複写し採録した作文の数は【表1】の通りである。期限は若干異なるが、2019年度は1月初旬でさえ2018年度を上回っていることを考えると、採録数は全体として増加している。採録されているのは、活発な学習の動きが見出される作文である。活発な学習の動きとは、疑問を解決しようしたり、問いを発見しそれに迫るような動きであるから、採録数はそのような動きの度合いでもある。2020年度の採録作文には、疑問や問いが自分の学習についてのものだけでなく、お友達の学習についてのものも多く含まれている。

[†] Yoshihiro TAMEIKE*: A Study on "Nara's Learning Method" as a Teaching Method
Keywords: question, Nara's Learning Method

* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University
(連絡先: tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

【表1】採録データ数一覧

年度 クラス	2018 1年月組	2019 2年月組	2020 3年月組
期 限	2月28日	1月9日	2月11日
採録数	1,770	2,238	2,996
平 均	50.6	63.9	85.6
最 高	130	159	209
最 低	12	14	6

児童別採録データ数【表2】を見ると、B女・N男・R男・Y男・Z男・CD男・GH男・計7名の減少、K男・AB男・OP男・計3名の停滞を除き、71%にあたる25名についてその数が増加している。なお、2020年度、採録数0のY男については個別具体的な事情が確認されている。全体として2年間担任した子ども、3年間担任した子どもの、そのどちらもの採録数が増加しており、子ども達は、以前よりも学習を作れるようになってきていると言って良い。採録された作文は、子ども達相互の学習の横のつながりと個々の学習の深まりの把握、それをもとにした学習指導に、「しごと・けいこ・なかよし」のあらゆる場面で使われるため、数が増えればそれだけ様々な指導を可能とする。最も採録数の多い2020年度は子ども達の学習を作る力がこれまで経験したことのない程、飛躍的に伸長した。

【表2】児童別採録データ数・平均増加率一覧

氏名 年度	2108	2019	2020	平均 増加率
A男	15	29	38	1.6
B女	-	58	37	0.6
C女	-	19	34	1.8
D女	102	125	193	1.4
E女	75	57	94	1.2
F女	-	81	106	1.3
G女	101	120	173	1.3
H女	41	50	97	1.6
I男	-	32	61	1.9
J女	-	159	193	1.2
K男	38	33	32	0.9
L女	130	157	209	1.3
M男	46	128	132	1.9
N男	0	49	27	0.6
O女	87	98	137	1.3

P女	-	35	146	4.2
Q男	24	60	45	1.6
R男	27	14	6	0.5
S女	82	159	200	1.6
T女	47	59	87	1.4
U男	56	75	86	1.2
V男	-	45	55	1.2
W男	-	55	100	1.8
X女	-	44	67	1.5
Y男	2	3	0	0.8
Z男	-	32	17	0.5
AB男	-	24	22	0.9
CD男	35	35	20	0.8
EF男	-	35	95	2.7
GH男	-	36	24	0.7
IJ男	-	69	102	1.5
KL女	-	68	91	1.3
MN女	-	56	78	1.4
OP男	-	39	39	1.0
QR女	-	96	138	1.4

3. 3年月組の子ども達の作る学習

(1) 年度当初の休校の位置付け

今年度の子供達の学習は、昨年度末から続く、コロナウイルス感染拡大防止の影響によって、4月8日の教科書配布から5月6日までの臨時休業、休校措置の5月24日までの延長という状況において開始された。このうち、4月13日(月)から5回予定されていたA・Bグループでの分断登校は2回となり、登校日までの課題は、学級通信⁽¹⁾の別紙「臨時休業中の学習課題(4月12日～5月6日)」に、「国語(3年生の学習)」「算数(3年生の学習)」「その他(プリント・2年生の学習)」に分けて示され、保護者が子ども達の学習を上手に支えつつ、子ども達には自律的な独自学習を作ることが求められた。その後、分断登校時の「きつつきの商売」の相互学習が保護者と学級通信で紹介され⁽²⁾、その他の動画配信等がなされた。

(2) 休校中における子ども達の学習

(a) 教科書を位置付けて学習を作る

このような中、子ども達は、4月8日の教科書配布直後から自宅で、「2年生までにはなかった地図や理科や社会の教科書」に目をつけ「理科の教科書

をもとにして、きょ年の春に見た生きものをくわしく調べ」たり（D女）、地図帳を見て「自分で地図を書き」いたり（Q男）、「前の算数の教科書と今の算数の教科書の字の感覚」の違いからユニバーサルフォントの意義を調べたり（L女）する独自学習を作っている。子ども達は教科書を自分の学習に位置付け、その上で自分の独自学習を作ったのである。（※以下、引用作文には便宜的に数字を付けた）

(b) ノートを記録として位置付けて学習を作る

また、昨年度のノートを読み返して、桜についてみんなで作った学習をもとに、次のような独自学習も作られている。

〔作文1〕4月14日・KL女「あーさくらが」

家の前のさくらがほとんど葉ざくらでした。「花ちらしの雨」がきのうと、おとといふりつづき葉ざくらになってしまいました。①去年は20日ごろまでちっていませんでした。去年、②J女さんがさくらのことについてはっぴょうしていました。4月の15日のことです。J女さんは学校のさくらの事をはっぴょうしていました。③学校といけの前の公園のさくらはさいたりちったりする日が同じでした。④去年の4月16日はまだ、さくらがさいていました。⑤今年は今日すでに家の前のさくらも葉ざくらなのかなと思いました。⑥学校のさくらのじょうたいを見に行きたかったです。

KL女さんは、去年の桜についての事実①②③④を確かめて、今年のお宅の桜の状態を予測し⑤、去年③であった学校の桜がどうになっているのか確かめたいと⑥しているのである。

(c) お友達の学習を意識した独自学習

休校明けの5月25日の採録作文は、①「学校が再開すると分かった時、『わーい！！』と思いました。なぜかという、みんなと久しぶりに会えるからです。学校についた時、『みんな！』とさげびそうになりました。でも、そこはこらえました。」(L女・「いよいよ学校」)・②「今日は、久しぶりの学校でした。みんなどういうふうに、かわっていつてるかな？と思っていたので、楽しみでした」(G女「久しぶりの学校」)・③「私にとっての三年月組は、たんたんとしてわいるいことをしてもあやまれるクラスだと思います。一年生のころは、『元気なクラスだと思っていたけど今は、なかよしのクラスと思えるから私たちは、大きくなったんだなあ』と思いました。」(E女・5月25日「大きくなった私たち」)・④「三

年生の私の目標はノートを書く事です。だから、発言ができませんでした。だから早く黒板を写して、発言できるようになりたいです」(F女・「久しぶり！」)・⑤「やっとなんたとあえるのでたのしみです。べんきょうはいやですがたのしくがくしゅうができるようにしたいです。」(Z男・5月25日「しゅくだいをがんばった」という日記であふれている。

みんなに会えるから嬉しい①、2ヶ月間のお友達の成長が楽しみ②、という素朴な感情とともに、みんなで協力して学習を作る意義についても、安心してなかよしを作る③・自分の学習を鍛える④・みんなで楽しく学習を作る⑤として、再認識されている。したがって、休校中の子ども達の学習は個々ばらばらのものではなく、お友達との学習を意識したものになっていると考えられる。6月は、「新しい生活様式」というテーマで「なかよし」の学習を進め、コロナ感染という現実問題に取り組む中で、新たにどんな学習や生活が作れるかという学習が行われた。

(3) 「学習方法」を独自学習する

お友達に会えない中でどのようにお友達の学習を意識して独自学習を作るかは、今年だからこそ鍛えられるものである。実際に担任が「学習方法」と位置付けた作文は、クラス35人の3分の2に当たる25人、その数は4月(20)・5月(23)・6月(22)・7月(31)・8月(12)・9月(5)・10月(5)・11月(3)・12月(12)・1月(7)・2月(1)となっていて、休校期間中の4・5月と休校明けの6・7月に採録数が集中している。子ども達はどんな「学習方法」についての独自学習をしているのだろうか。

1年次に問題行動のあったM男君⁽³⁾は、休校中の課題が示される前に、「昨日から3年生になったしもっと早く日記を書きたい」という理由から「作文の書き方」という本を読んで、「ないよのつながりを考える」ことや「言ばや文をつけたす」「けす」をきちんとすべきという自分の課題を見つけている(M男・4月9日「作文の書き方」)。2年次、M男君の作文採録数は【表2】にある通り1年次の3倍近くとなり、精密な観察・調査・考察をもとに相互学習で発表し、そこから新たに問題を発見して、たくさんの「しごと」の独自学習を作っている。3年次は、一つ一つの独自学習が「早く」出来て、その「ないよのつながり」を明確にすることで学習対象の構造を明らかにするためには、必要のない「言

ばや文」を削除し必要のあるものを「つけたす」という観察・調査・考察にする必要がある。M男君は、自分の独自学習を2年次よりも良いものにする「学習方法」について学習しているのである。

ほかの子どもはどうであろうか。3年月組には、机の中が乱雑で、2年当初には「朝の会」や学習が始まってもノートを机の上に出さず、2年次はほとんど発言できなかったEF男君が在籍している。2年次にEF男君は、夏休みの自由研究で、アリの巣の近くにエサを置いて観察する独自学習を作っているが、M男君が1年次にそうであったように、お友達の学習やお友達と作る学習で追究する問題の解決に自分の独自学習を位置付ける「しごと」では学習が作れず、「けいこ（国語）」の「イソギンチャクとクマノミ」の共生に関して、板書記録で2度の発言が確認出来る程度であった。

【表3】EF男君による「アリ」の独自学習

番号	月日	タイトル	種別
1	0414	アリ	日記
2	0420	アリ	日記
3	0421	アリ	日記
4	0422	アリ	日記
5	0424	アリ	日記
6	0427	アリ	日記
7	0428	アリ	日記
8	0507	アリ	日記
9	0509	アリ	日記
10	0516	アリ	日記
11	0517	平じょう宮せき	日記
12	0521	アリの食べもの	日記
13	0530	アリ	日記
14	0531	女王アリ	日記
15	0602	女王アリ	日記
16	0606	アリ	日記
17	0613	女王アリ	日記
18	0620	女王アリ	日記
19	0621	女王アリ	日記
20	0627	アリ	日記
21	0628	アリ	日記
22	0708	女王アリ発見	日記
23	0709	アリ	日記

3年次のEF男君のアリの学習は、4月の標準作り[1]からスタートし、昨年同様に「アリにあげるえ

さを考え」[2]るものではあるが、「クロオオアリをみつめて、タッパにいれてそだて」[3]たり、砂糖・パンに「たんぱくしつのかつおぶしをゆで、においをきつくしないようにまぜ」るエサの開発を試みたり[12]、5月末に女王アリを捕まえて産卵させ観察し[13]たりするなど、学習対象に積極的に働きかけるものである。また、育てていた女王アリと幼虫が死んだ[18]ことについても次のような考察[19]を試みている。

【作文2】6月21日・EF男「女王アリ」

女王アリについて考えました。①死んだ理由は、②メープルを水でうすめないであげて、大りように食べたからだと思います。③そのあとに水をのませたら、おなかがはれつすると書いていました。でもおなかがはれつしていたら、④あながあくと思うけれどあいてなかったので、中ではれつしたと思います。いつも、先生が事実をあつめると言っていたけれど、⑤本当にそれでいいのかをしらべていなかったので死んでしまいました。(以下略)

EF男君にとって動かし難い客観的事実①は原因を解明すべき問題でもあるが、そのメカニズムについては事実と突き合わせて考察している(④)。そして、④によって支持された事実であり問題である①を、女王アリのエサにはメープルシロップが良いという情報だけで②を実行し③を読み飛ばした自分の学習によって起きたと把握している。⑤はアリの学習についてのEF男君のメタ認知である。EF男君の「学習方法」の独自学習は、自分の学習がどうなっているかを客観的に把握するものとなっているのである。

4. 「しごと」の独自学習

(1) 「学習方法」を「しごと」で鍛える

EF男君の、上記のような学習が「しごと」の独自学習にどのようにつながっていくかを【表4】を参照して見てみよう。【表4】から了解されるのは、[19]以降のタイトルが明確で具体的になっている点である。[18]までは、奈良公園のシカの観察[1]、奈良公園のシカのエサ[2, 4, 5]や大台ヶ原のシカのエサ[3]の考察、夏休み明け8月21日以降は、奈良公園のシカの観察[7, 8]のように、アリのエサの学習をシカのエサの独自学習に適用し置きかえただけのものである。また、シカの保護施設「ろくえん」での聞き取り計画[13]をしているが、職員不在で失

敗[14]している。聞き取り計画[13]で「しかと人間のきょう生」を「しつ問」したいとしてはいるが「しかはどこ森や林でねているか」「しかっぴ（※シカのフンで作った肥料）のにおいもかいでみたいです」と支離滅裂であることから考えると、何を確かめたいかが不明確であり、学習が自分事とならず真剣味を帯びていない。しかし、県内自治体ごとの被害面積と被害額との関係を確認した[19]以降は、2つの疑問①「五じょう市は、広いけどなぜそんなにひがいがくが高いかぎもん」・②「ひがいが何もないところ」は「人があまりすんでいないからだと思います」に基づく独自学習[22]が行われ、解き明かしたい問題がタイトルに明示され、シカの捕獲許可・D地区・柳生での聞きとり調査[23]と発表[24]につながり、次第に自分事となっている。

【表4】EF男君による「しごと」の独自学習

番号	月日	タイトル	種別
1	0726	奈良公園	日記
2	0728	しかのこと	日記
3	0802	大台ヶ原のしか	日記
4	0816	奈良公園のしか	日記
5	0817	しか	日記
6	0821	奈良のしか	日記
7	0822	奈良のしか	日記
8	0823	奈良公園しかが水あびを	日記
9	0826	しか	日記
10	0827	しか	日記
11	0828	しか	日記
12	0908	天ねん記ねん物	日記
13	0919	ろくえん	日記
14	0920	聞けなかった	日記
15	1002	しかせんべい	日記
16	1003	しごと	日記
17	1118	しか	日記
18	1128	しか	日記
19	1228	しかのひがいをなくすためには	しごとノート
20	1230	しか	日記
21	0105	しかのひがいは、4038万円かな？	日記
22	0106	しかのひがいはどうすればいい？	日記
23	0131	インタビューをやぎゅう（柳生）で	日記
24	0211	しか	日記

(2) お友達の独自学習を支え発展させる独自学習

(a) 「なぜ」から作る学習の指導

9月には「しごと」に真剣ではないEF男君が、1月に現地での聞き取り調査[22]におよぶようになるのであるから、何かがEF男君に働きかけたことになるが、その何かとはなんだろうか。採録作文を通覧してみると、6・7月には、EF男以外の子どもの「なぜ」「どうして」「問い」という言葉を含む独自学習が次のように作られていることに気づく。

【作文3】6月2日・T女

先生が、ホワイトボードに、「なぜ」「どうして」「はてな？」「発見」と書きました。その時には気づかなかったのですが、「なぜ」「はてな？」を出せてなかったことです。そして、なにも調べられなかったです。だから、がっかりしました。なぜなら、もう3年生なのに、先生に言われる前に、できなかったからです。

【作文4】6月4日・G女「社会の学習」

三時間目に『社会の学習』は初めてなので、先生からこれから学習していく、じゅんじょを教えてくださいました。まず、ぎ問からです。「なぜ」「どうして」というのが、スタートです。それから、調べたり考えたりします。その事を話し合ったり発表したり、します。そこで、事実が分かります。そういうのを、くりかえしつづけます。だから、先生がおっしゃったように、研究はえいえんに、つづけます。

【作文5】7月26日・W男「自由研究じゅんびシート」

まだ自由研究準備シートを出せてません。それは、本しつてきな間がまだ分からないからです。まずハニカムこうぞうのことを知ってから何か分からない事が出てくると思います。今は、本などで調べていますが、あまりハニカムこうぞうについてくわしくかかっているものはありません。だから、本物を見たら、分かる事があると思って、生駒のようほう場をさがして、その所に行ってい事になりました。丸とハニカムこうぞうのちがいについて、作ったりして事実を集めてそこから、本しつてきな問いを出したいです。

6月から、疑問から出発し〔作文3〕、疑問を解決する独自学習を持ち寄って事実を繰り返し明らかにしていく終わりのない研究が続けられ〔作文4〕、学習対象の全体像をある程度把握して問いを見つけそれに迫る学習〔作文5〕が作られているのである。一方、EF男君は、夏休みの自由研究で「ありのす

を見ていて、なぜ木のねっこの近くに巣があるのか」(8月10日)、クロオオアリは「なぜ木の近くに」あるのか(8月11日)・「草のところにすを作らないのはなぜか」(8月12日)を連続的に考えてはいるが、疑問は単発で終わり、疑問や問いが連続する学習を作るには至っていない。

(b) 生活や学習での自分の役割に気付く独自学習

「しごと」の独自学習を作るには、お友達の学習に、自分の学習がどのような意味をもつのかを自覚させることが必要である。この学習指導は、日直や係としてみんなの学習に自分がどのような役割を果たせば良いのかについての独自学習となって現われている。U男君が意を決して行なったホワイトボードへの板書〔作文6〕や、それに引っ張られて人前に出るのが苦手なKL女さんが行った板書〔作文7〕についての独自学習や、音楽係の仕事についての独自学習〔作文8〕がそれに該当する。

〔作文6〕6月16日・U男「ステップアップ日直」

(よし。どんどん書こう)と思って、生きものがかりさんと、どんどん書きました。すると、2時間目をおわる時は、もうホワイトボードはパンパン。先生に、しゃしんをとってもらえて、よかったです。

〔作文7〕6月16日・KL女「書いてみた!」

今日わたしは日直でした。初めてのホワイトボードにばんしょしました。わたしはじゅうような所をホワイトボードにみんなが分かりやすいようにきれいな字で書きました。その事を母に話すと、「あんた、人前に出るの苦手やのにやるやん!!がんばったやん。」とほめてくれました。わたしはみんなの役に立てたと思いました。次の、日直さんも大へんだけど、みんなのためにホワイトボードにばんしょをがんばってしてほしいです。

〔作文8〕6月15日・E女「ぜんぜんかかりという気がしない…」

今日、音楽の時間がありました。私は、ぜんぜんかかりという気がしませんでした。「なーんだ、かかりってこんなもんか」と思いました。私が思っているかかりは、みんなのすることです。でもこんな音楽のすすめ方でみんなのおせわというのでしょうか?私とF女さんは、ただうち合わせをしてただ、手をあげている人をあてて、めあてやふりかえりの時に話すだけです。ほかのかかりさんにも言います。こんな事をするだけで「かかり」と、いいますか?

一方EF男君は、「ぼくは、れんらくちょう係に

なりたいです。理由は、楽だからやりたいと思っていただけ自分できちんとできる仕事だからやりたいです」(9月15日)のようにお友達のために役立ちたいというスタンスに欠け、自分の得意分野である生き物係になっても、「水かえの時間と、休か日とデータを集めてカメにとって元気に育つ方法を考えたい」(9月18日)のように、カメのために何をするかし考えられていない。

(c) すぐれた「しごと」の独自学習を作る雰囲気

したがって、EF男君において、9月になってもお友達との関係で自分の役割が考えられない状態と、1月にお友達と作る「しごと」の独自学習でD地区での聞き取り調査をすることの間には、相当なギャップがある。この点に関して担任からは、まわりの子が動くなかで自分もそう動くように追い込まれることで動くこともあるという説明を受けた⁽⁴⁾。実際に、どうであるか確かめてみよう。【表2】で採録数・増加率の多い子どもの作文を見てみると、事実を突き止めたり考えたりする中で気づいた奈良のシカをめぐる矛盾—9月：シカせんべい自体が抱える矛盾(S女：200・1.6)〔作文9〕・11月：広島・宮島と奈良のシカの扱いをめぐる矛盾(J女：193・1.2)〔作文10〕・12月：「奈良のシカ食害訴訟」をめぐる農家の矛盾(M男・132・1.9)〔作文11〕・1月・冬休み中：シカの保護地区の矛盾(QR女・138・1.4)〔作文12〕・冬休み明け：「片利共生」と共生の矛盾(G女・173・1.3)〔作文13〕—を追い、社会構造を炙り出しつつ次第に本質—「人間とシカは共生できるのか」という問い—to9月以降迫っていることが分かる。

〔作文9〕9月30日・S女「しかせんべいは、シカにとって意味があるのか?」

私は、「しかせんべいはシカにとって意味があるのか?」ということを考えました。私は、意味がないと思います。なぜなら、コロナがはやってから、かん光客がへって、しかせんべいがなくてもけんこうだからです。これは、V男くんも、D女さんも、他にも色々な人が言っていたので本当だと思います。でも、これだったら先生に「じゃあ何でしかせんべいを売ってるの?」とつつこまれると思ったので考えました。私は、「人間の都合」だと思います。どういうことかということ、かん光客がよろこぶ・お金がもうかる・シカへの不足(悪いえいきょう)なしということです。人間がもうかるからシカせんべ

いを売ってるのかな?と思いました。

〔作文10〕11月8日・J女「地元の人の声」

昨日、広島に夜ごはんを食べに言った時に、店員さんのおばちゃんに「明日宮島の鹿を見に行く」と話しました。すると、「野生化して菌をいっぱい持っているから、さわったらあかんよ」と教えてくれました。家族でびっくりしました。なぜなら、奈良公園の鹿はさわったらだめだと言われた事がないし、観光客がさわっているからです。それともう一つおもしろい話を聞きました。それは、鹿が川を泳いで町を移動しているという事です。昔はそんな事がなかったから、やっぱり野生化していると思うよとおっしゃっていました。そうなっている事で、鹿の数がふえているそうです。地元の人に直接お話が聞けて、知らないことばかりできょう味深かったです。このお話を聞いて、菌の事は分からないけど、奈良公園の鹿と宮島の鹿で性格がちがうのかなと思ったから、今からたしかめに行こうと思います。

〔作文11〕12月9日・M男「さいばんの内ようは?」

今日、先生がしごとの時間に、「みんなにはまだむずかしいと思うけど、さいばんの内ようを調べれる人は調べてみてください。」とおっしゃっていました。そこでぼくは調べてみることにしました。内ようは、被害額、鹿食害防止ひょう及び10%弁護士費用の損害賠償330万円の請求という物です。原告は、鹿によって農作物に被害を受けた奈良公園周辺の農民12名です。被告は、宗教法人春日大社および財団法人奈良の鹿愛護会です。ぼくはこれを見て、「自分が大事に育てている野菜を食べられたら嫌だし、もし売りに出すものだったら、その分お金が入ってこないから、さいばんを起こすのもありえないことではないかもしれないなあ」と思いました。

〔作文12〕1月4日・QR女「ABCD地区について」

奈良のシカの地区をしらべてみたらA地区B地区はほご地区で、とくにA地区は、神のつかいのシカとして、ほごすべき中心地域で、B地区もその周辺で、奈良のシカの主な行動はんな地いきでした。そして、D地区は、かん理地区になって、C地区は、B地区の間の地区になります。D地区のシカは、かん理される地区だから、ほかくされることもあるそうです。そして地図をみて思いました。それは、D地区でもJR奈良より少し行っただけで、D地区になってしまいますが、私は、シカをJRの駅の近くでもみたことがあるけれど、それもD地区のシカと

してほかくされてしまうのかなと思いました。

〔作文13〕1月16日・G女「奈良のシカ 考えのまとめ」

今日は、「奈良のシカ」のことについて、今までの学習をふりかえって、私の意見をまとめました。私はつねに、「共生」や「功罪」のことを考えました。なぜこの2つかというと、この2つの言葉は色々なことにつながっているからです。功罪だったら食害や価値などにつながっています。共生は全てにつながっているとも言えます。「片利共生」にもかかわってきます。奈良はシカとなかよくするべきなんだと思います。でも、奈良の農家さんはシカの食害でこまっています。このような声がある時点で、共生は片利共生へと変わっていきます。それでも、奈良県のけいざいのためには、人のカバーは重要だと思います。共生はできなくても、人が功をかりてる分は罪をカバーしなければならないと思います。

(d) お友達の独自学習による働きかけ

以上のように見てみると、EF男君は、疑問や問いから学習を作る指導については、十分にそれを自分のものとする事が出来ず(4(2)(a))、また学習全体における自分の学習の役割や意味についてもそれほど自覚的ではなかったから(4(2)(b))、担任の言う通り、お友達の独自学習がEF男君の独自学習に働きかけたということ(4(2)(c))は確かであろう。

5. 「けいこ(社会・国語・算数)」の独自学習を發展させる子ども

(1) 地図の学習から別の「社会」の学習を作る

休校中に出された社会科の地図作りの宿題は、その独自学習の回数が最も多いX女さんにあつては、例えば「理科×社会」というテーマで、公園の樹種を調査し4月13日から5月23日まで11回にわたって地図にマッピングする地図記号の独自学習として執拗に継続されているが、「地図記号の由来」(F女)・奈良県の地図の色塗りから気づいたこと(I男)・奈良県と大阪府の面積と人口(D女)のように、異なる角度からの地図の独自学習も作られている。また、休校明けに消防署の地図記号が「さすまた」に由来することが分かると、江戸町火消し・江戸時代の家の構造・消火栓のマッピング・消防自動車のはたらき・消火と消火栓との関係・附属小の消火方法・プールに貯めている水の体積についての独自学習へ發展

し、郵便局の地図記号が逓信省由来である事を知ると、郵便ポストの「〒」の位置・郵便ポストの構造・郵便ポストの地図上のマッピング・奈良県と大阪府の郵便ポストやそのシステムの違い・郵便番号とポストの番号の独自学習へと、ほぼ同じ時期に同時進行で発展した（【表5】・【表6】参照）。社会科の地図の学習は、地図にとどまらず、消防署の仕事や郵便局の仕事の学習につながり、地図や消防署の学習は、安全の学習で避難所の位置・一次避難所と一時避難所・二次避難場所であり一時避難場となっている中部公民館へのインタビューへとつながり、1月15日から2月11日まで延べ51回の独自学習が行われた。

【表5】 消防についての独自学習

番号	日付	名前	タイトル
1	0530	S女	消防しょのマーク
2	0530	S女	消防しょのマーク
3	0531	S女	消防しょのマーク
4	0601	IJ男	さすまた×けいぼうのれきし
5	0601	S女	消防車の水はどうしているの？
6	0601	EF男	なかよし
7	0601	Q男	さすまた
8	0601	J女	さすまた
9	0602	G女	江戸のさすまた
10	0602	H女	ちがう意味の『さすまた』
11	0602	Q男	むかしのさすまた
12	0602	F女	本当？
13	0603	S女	まとい持ちと大うちわ
14	0603	H女	消火せんとは…
15	0603	M男	しょう火せんのつかい方
16	0603	W男	しょうぼうしょの地図記号の意味
17	0605	M男	しょう火のし組ってすごいよ!
18	0606	U男	しょう火せんがある
19	0606	M男	しょうぼう車のねだん
20	0607	U男	WATERTANK
21	0607	M男	しょう火せんの形は1つではない!
22	0610	M男	町火けしのどうぐ
23	0610	D女	しょうぼうしょの地図記号
24	0614	M男	町火けしのかつやく
25	0624	J女	昔の日の消し方
26	0630	J女	送水口
27	0702	J女	採水口
28	0726	M男	各国の消防車

29	1004	M男	消火栓が
30	1229	M男	消火栓が動く?!

【表6】 郵便についての独自学習

番号	日付	名前	タイトル
1	0611	L女	ポストを見よう!!
2	0612	OP男	ゆうびんポスト
3	0614	J女	郵便ポストについて
4	0614	O女	ポスト
5	0615	S女	ポスト
6	0616	J女	奈良にあるポスト・大阪にあるポストのちがいがい
7	0616	G女	ポスト
8	0616	C女	〒ポスト
9	0616	O女	ポスト②
10	0617	I男	ゆうびんきょくの地図記号で〒ポストにしているかと思ったら調べるとちがってなーんだと思ったこと
11	0618	N男	速たつとふつうゆうびんのちがいがい
12	0618	IJ男	外国のポストのいろは???
13	0618	B女	ポスト
14	0620	G女	ポストの決まり
15	0620	S女	ポスト②
16	0622	J女	ポストのかんさつ
17	0623	U男	ポストに番号?
18	0624	Q男	ポストのれきし
19	0625	G女	ポストの数はへってるの?
20	0625	IJ男	赤色からうまれたぎもん!
21	0625	S女	『速たつ』ゆうびんって何?
22	0625	I男	2時間目と3時間目の学習でやったポストの数(せっち場所)がとっても気になったことについて
23	0625	L女	速達ゆう便とふつうのゆう便のちがいがい
24	0627	G女	ゆうびん局にインタビュー
25	0628	G女	速たつゆうびん
26	0702	IJ男	ポストのきよりはきまっているのか?
27	0704	O女	はがき
28	0708	P女	帰ってきたやん
29	0722	KL女	近!!
30	0714	P女	なあ`ぜ?
31	0722	W男	ポストとポストの間
32	0722	G女	ポストのせっちきより

33	0723	KL女	インタビュー
34	0723	S女	ポストのきより
35	0725	S女	きよりの決まり
36	0726	G女	郵便の歴史
37	0801	O女	ゆうびん
38	0806	S女	きよりの決まり②
39	0807	J女	ポストについてのおたずね
40	0807	F女	ゆう便
41	0826	E女	丸いポストのために
42	0820	W男	ゆうびんの都合とは
43	0820	D女	ポストの色と形のへんか
44	0825	M男	ポストのれきし
45	0825	EF男	ポスト
46	0827	F女	ポストの中は？
47	0830	E女	私が見たポスト
48	0828	F女	インタビュー
49	0829	A男	ポストの中を見に行っただ
50	0829	OP男	プール(後半)
51	0830	OP男	ゆうびんきよくの都合が明らかに
52	0903	IJ男	ポストげきげん？ インターネットふきゅう？
53	0920	A男	赤と茶のポスト
54	0922	U男	平群町のポスト番号
55	1006	U男	アマゾンのそくたつゆうびん
56	1024	S女	ポストが2つ
57	1027	M男	2つのポスト

(2) 「けいこ (国語)」の学習を伸展させる

この傾向は、国語についても同様であった。4月13日の分断登校時に「きつつきの商売」の学習が始まると、その日から、教科書に出てくる、キツキ・ブナ・うろ・野ネズミ・野ウサギ・タチツボスミレ・リル・えりすぐり・場面を示す番号の意味・何度も出てくる「へえ」の読み方・3の場面を作るといった独自学習が一斉に行われた。その独自学習は、延べ116回継続され、B女(2)・D女(6)・E女(3)・F女(9)・G女(5)・H女(5)・K男(2)・L女(20)・M男(2)・O女(4)・P女(2)・Q男(3)・S女(9)・T女(5)・U男(8)・W男(2)・X女(2)・CD男(2)・EF男(2)・MN女(7)・QR女(7)合計21人が2回以上延べ98回学習を作り、クラスの6割の子ども達で84%の独自学習を占有した。休校明けの6月には主題に迫ることを可能にする問題「なぜキツキはただで野ネズミに雨の音を聞かせたの

か」が子ども達によって設定され、約1ヶ月にわたり延べ57回の独自学習が展開された⁽⁵⁾。夏休み明けの8月末に、金子みすゞの詩の学習が始まると、詩を味わいつつ「悲しい人生をおくってきたみすゞでも、本が好きで自分で話を作っていたぐらいだから、詩も楽しんで書いたらうから、悲しい詩だけではないはずです」(9月9日・H女「金子みすゞの人生」という金子みすゞの生涯と詩との関係に迫る独自学習や、買ってもらった金子みすゞの本から『星とたんぼぼ』が紹介され(9月14日・B女「本」)、「他の詩との共通点などがあるかどうか」を考える独自学習(9月19日・T女)が作られた。9月末に「ちいちゃんのかけおくり」に入ると、相互学習をはさみつつ太平洋戦争・防空壕・平和・あまきみこ・原爆ドームの独自学習が延べ50回、「ことわざ」についても、雑煮・餅の形・おせち料理についての独自学習が延べ32回作られた。

(3) 「けいこ (算数)」と「けいこ (理科)」

12月の「けいこ (算数)」の分数の学習では仮分数が問題とされ、「分数とは何か」という学習が展開された⁽⁶⁾。また、「けいこ (理科)」については休校中の「春観察」で独自学習(延数・73)が作られた後、光の性質ではそ性質を調べる実験を数名に分かれて計画し予想を立てた後、鏡の枚数による集光と表面温度の測定結果を考察したりする学習が行われ(延数・15)、豆電球では「物のそ材を知って、電気を通すものを見つけ」(J女・2月9日)たりするなかで「みんなはどんな物に電気が通ったのか発表を聞くのが楽しみ」(F女・2月9日)という学習がみんなで作られる中、「いろいろな物に使われている電池」(2月10日・Q男)の独自学習も作られた。子ども達で作った独自学習のうち、担任が位置付けたものは、二十四節気・三年とうげ・4年月組の畑・5W1H・5W2H・国際・アリの行列・安全・海の日・運動会・円・円と球・大きな問題・引用・鬼ごっこ・音楽態度・音楽会・オンライン・オンライン研究会・おん祭・鏡びらき・書き初め・学園前・学年リレー・かげと太陽・家族・スポーツの日・カボチャ・カメ(※3年月組で飼っているカメのミドリちゃん)・環境整備・観察発表・漢字・北口南口・気持ち・給食・給食当番・子どもの日・コマ・コロナ・桜・3年月組の畑・3年生・集会・自由研究・正月・少数・心理・節分・全校発表・先生・戦争・造形・葬式・掃除・大豆・七夕・誕生日・ダンス・父の日・ツバメ・哲

学・動画・学校・長さ・なかよし・七草・なわとび・入学式・熱中症・白地図・母の日・春観察・光の性質・避難訓練・ひまわり・表とグラフ・プール・ふりかえり・分析・文化の日・防災頭巾・歩走・歩走納会・豆電球・面接・もち・野菜・ユーモア・行方不明・理科植物・リコーダー・立秋・臨時休業・6時間・忘れ物、等であった。

6. 「問い」と学習についての「学習なかよし」

3月に前後して、「しごと」についてのまとめを、それぞれが10枚程度の作文に整理し、3月18日に「学習なかよし」のお楽しみ会で、「テーマ：みんなで学習をつくるとういことはどういうことだろうか」についての教師無発問による子ども達だけで作る学習が作られた。板書記録を手がかりに、この子どもの言葉を発言順に見ていこう（[]内は筆者が補った）。3T女：事実が学習を深める・8J女：ちがう方向から（バラバラの学習）が一つの学習になっていく・10U男：問いは学習の中から生まれる。事実と考える→新しい問いへ・11E女：「試行さくご」[第1発言者の言葉]とは、失敗を重ね目標に向かう[こと]。「試行さくご」しながら、自分たちの力で学習を進める・13G女：「事実と考える→新しい問い（10U男）」[とは]本質的な問いへ近づいていく（深化する）[こと。それが]「共生問題」へ[つながる]。なかよしと合わせて、自分たちの考えをどんどん変えていく・14S女：「問い」は学習することで本質的な問いに近づいていく。学習する[には]「なかよし」が大切。「自分には何ができるか」これが「なかよし」・16EF男：なかよしがないと、小さな問いはできても、大きな問いはできない。（※KL女・M男・QR女・W男：発言なし）

したがって、子ども達だけでこの日作った学習は、およそ次のようになるだろう。事実が学習を深めるのであるから（3T女）・たとえ違う方向からのバラバラな学習であっても（8J女）・その学習の中から問いが生まれ事実とそれについて考える事が新しい問いへとつながる（10U男）。その学習のプロセスは失敗を重ねて目標に向かう「試行錯誤」である（11E女）が、「試行錯誤」によって本質的な問い—例えば「しごと」の「共生問題」—へと私たちの「なかよし」は近づいていく（13G女）。だからこそ学習には「自分には何ができるのか」を考え続ける「なかよし」が必要である（14S女）。一人では小さな

問いしかつけれないが「なかよし」があれば大きな問いが出来る（16EF男）となるだろう。

7. 子ども達はどのように学習を作ったか

以上のように2020年度の3年月組の子ども達の学習を追ってみると、4月から5月にかけての休校期間中は、2年生までに身につけた学習の作り方を生かしたそれをより良くしようとして、自分事としての独自学習が作られたと考えられる（3（2）（a）（b））。その際、子ども達は自宅にいても、学校の教室でみんなと作る学習を想起し、そこでの学習のよさや、「なかよし」の意味を考えつつ（3（2）（c））、それゆえそれぞれの学習がお互いに強く結びつく独自学習を作っている。したがって、休校明けに始まった「けいこ（社会）」では、すでに休校中の地図の独自学習が、お友達の学習を十分に意識したものであったので、相互に強くつながり消防署や郵便局の学習を作り出す（5（1））ことになったのである。

2年次に「しごと」の独自学習が作れなかったEF男君が、あいかわらずたんたん作った3年次でのアリの学習は、自分がどんな学習をしたかが捉えられる「学習方法」でもあったが、その捉えが生かされて、お友達の学習における自分の学習の意味や役割を考えることが出来るようになった。しかし、「しごと」の独自学習を作れるようになるには、疑問や問いによって学習を作る仲間や（4（2）（a））、みんなの学習における自分の学習の意味を考える仲間（4（2）（b））に加え、事実を突き止めたり考えたりする中で気づいた、シカをめぐる複数の矛盾についての学習を作り、次第に本質的な問いに迫っていく、仲間—学友—の存在（4（2）（c））が大きかったと考えられる。

「けいこ（国語）」の場合、学習対象としての作品の主題は問いにつながるものではあるが、作品として状況が設定されているという意味では、当初から状況が設定されない中で問いを自ら発見しそれに迫ろうとする「しごと」ほどむずかしい学習にはならない。そのため、「しごと」の独自学習を作れる子ども達にまだまだ余力と物足りなさがああり、作者の作品論や背景に迫っていった（5（2））と考えられる。また「けいこ（算数）」では、例えば「分数とは何か」は問いではあるが、その説明は多様ではないので、同様に「しごと」ほどむずかしい学習ではない。分数の学習で仮分数が問題となった（5（3））のは、

仮分数が「分数とは何か」という問いへの説明に窮する事例だったからである。子ども達はこれまでの学習を通して問いの存在の意義とともに、その問いに迫る学習の面白さが分かっていたのである。それを裏付けるのが3月の「学習なかよし」での問いについての話し合いであろう^⑥。

8. 結論

副校長・杉澤学氏が担任した1年月組・2年星組・3年星組・4年月組と、その維持されたメンバーによる5年月組・6年月組の「しごと・けいこ・なかよし」における子ども達の成長について、コロナ禍で附小に足を運べない2020年度後半に、動画を何度も見直しつつ授業記録を作り、重松鷹泰の直弟子で、薄田氏を指導した宮崎富士也先生から教わったことを、あらためて薄田氏と確かめて分かったのは、「奈良の学習法」の一つの現れが、学習を「問（ま）」で指導していくその技術だということである。

なぜならば、杉澤氏の「朝の会」や「しごと・けいこ・なかよし」の学習には型がなく変幻自在であるが、それでいて子ども達には学習する力が確かについており、後期11月以降にみんなで作る学習は、4月とは比べものにならない程、高度で複雑だからである。また型がないという点については、薄田氏も同様であり、この論文でも確かめたように、子ども達に付いた学習を作る力は想像をはるかに超えたものであったから、おそらく「問」による指導は、最も効果のある学習指導の一つだと考えられる。

このことを念頭に置いて、「奈良の学習法」を「しごと・けいこ・なかよし」の教育構造に落とすと、およそ次のようになる。①指導の要は学習の仕方の指導としての学習指導である、②学習指導の適不適はその日以後の授業外での独自学習(A)の多寡(採録される日記の数)となつて直ぐにあらわれる、③その独自学習(A)を手がかりにし授業での「問」を使った指導が①の学習指導の一つである、④学習指導に不可欠なのは、お友達を作る独自学習やお友達と作る相互学習が自分の独自学習にとって不可欠であることを感得させることである、⑤その感得の場は「しごと・けいこ・なかよし」の全てであるが、特に状況を把握し、「問」を使って、多様な子ども達に応じて指導を修正し、具体的な学習の仕方の指導を積み重ねながら、それを感得させることが容易なのは「なかよし」である、⑥また、このような「な

かよし」を通すことで子ども達の生活は学習になっていくが、それが「学習即生活・生活即学習」の状態である、⑦「しごと」の独自学習は普遍的な問いに迫る学習であるためお友達との強い相互協力が不可欠である、⑧なぜそのような相互協力が不可欠かと言えば普遍的な問いもまた歴史的存在である様々な人々が相互に考え続け織りなす中でしか存在し得ないからである、⑨歴史的存在である人々が相互に考え続け織りなす歴史的時間は、生きる中でその問いの答えを真剣に見つけようとする相互協力でもあるから、それを学習で実現するような「しごと」の独自学習の学習の仕方についての学習指導は最も重要で難しい学習指導となるのである、⑩「なかよし」での指導はそれを具体的に、また思想として支える、⑪このような位置付けの「なかよし」は学習や、生活における学習を、鍛えつつ普遍的な思想を形成させるものであるから、きわめて道徳性の高い(最もむずかしい、自分を手放すことのできる)子ども達を育てることが出来るのである、⑫「けいこ」で子ども達は教科特有の学習の仕方を身につけることが出来るが、その学習の仕方は「しごと」よりもたやすいため、高いレベルで「しごと」の独自学習を作ることの出来る子ども達はむしろ「しごと」の学習の仕方を使って「けいこ」を作ろうとする、⑬算数における本質的な問いは(例えば分数とは何かのように)答えが一様であり、また国語の物語文や説明文における問いは作者によって設定された主題により決っているから、自ら問いを発見しそれを追究する「しごと」の独自学習を作れる子ども達には、「けいこ(算数)」で問いに迫る学習、「けいこ(国語)」で主題に迫る学習、「けいこ(理科)」で疑問を見つけそれを解決する学習は容易である、⑭したがって「しごと」の独自学習を作ることの出来る子ども達が作る「けいこ」の独自学習は質の高い学習になるのである。

[謝辞] 研究の場を与えてくださった奈良女子大学附属小の教職員の皆様、伸びていく子ども達を作る学習のすごさと美しさと楽しさを教えてくださった、杉澤学先生、薄田太一先生、そして6年月組と3年月組のみなさんに、あらためて感謝します。

※本研究はJSPS:20K02727の助成を受けた。

【注】

- (1) 薄田太一, 「学級通信・笑顔:3年生のスタート」
(no.1,2020年4月8日)。
- (2) 薄田太一, 「学級通信・笑顔:分断登校時の学習」
(no.2, 2020年5月1日)。
- (3) 拙稿「奈良女子大学附属小の学習指導がどのようにそれを『しごと』にし子ども達を成長させていくか:板書・日記・授業記録を5年間追ってわかったこと」(『社会科教育研究』no.141, pp.31-43,2020-12)。
- (4) 2021年3月20・21日に実施した堀川小と奈良女附小関係者有志による合同研究会での発言。
- (5) 学級通信「笑顔:『きつつきの商売』の最終章」
(no.4,2020年6月30日)。
- (6) 薄田太一, 「学級通信・笑顔:分数の学習」
(no.15,2021年2月4日)。

令和3年4月1日 受理

A Study on "Nara's Learning Method" as a Teaching Method

Yoshihiro TAMEIKE